

中野総合学科新校再編実施計画懇話会研修会

—総合学科の概要—



学校の顔キャラクター「中野のゆき」
©長野県教育委員会信州なび局

令和4年（2022年）2月21日
長野県教育委員会 高校再編推進室

研修会の内容

総合学科の概要

- 1 総合学科の説明
- 2 全国の総合学科について
- 3 第1期長野県高等学校再編計画 まとめと課題の整理
- 4 総合学科の現状と成果・課題
- 5 質疑

総合学科の構想 ①

■ 高等学校教育の改革の推進に関する会議（1993<平成5>年2月）

高等学校教育の改革の推進について（第四次報告）

—総合学科について（報告）—

- 総合学科は、**普通教育**及び**専門教育**を**選択履修**を旨として**総合的に施す学科**
- 高等学校教育の一層の**個性化・多様化**を推進
- 普通科、専門学科に並ぶ**新たな学科**として設置

<「第四次報告」での総合学科入学者のイメージ>

- ・学習成果を自己の将来の進路に結び付けようとする生徒
- ・総合選択科目群の選択により就職を希望する生徒
- ・自己の能力・適性等に合った分野への進学を考えている生徒

国語、数学などの普通教科・科目中心

普通科

農業、商業などに関する専門教科・科目中心

専門学科

幅広い選択科目の中から自分で選択
総合学科

- 1994(平成6)年度開設
- ・岩手県立岩谷堂高等学校
- ・栃木県立さくら清修高等学校
- ・筑波大学附属坂戸高等学校
- ・三重県立木本高等学校
- ・和歌山県立和歌山高等学校
- ・島根県立益田産業高等学校
- ・沖縄県立沖縄水産高等学校

<背景>

- 多様化する生徒への対応
- 社会的・職業的自立の欠如
(職業意識の未熟、無業者の増大など)
- 進路意識や目的意識の希薄な進学増加

<期待>

- 思い切った教育課程の弾力化の先行事例
- 偏差値による序列の打破の契機
- 地域の人々の生涯学習機関としての役割

<理念>

- | | | |
|------|---|-------|
| ○画一性 | ➡ | ○個性尊重 |
| ○硬直性 | | ○柔軟性 |
| ○閉鎖性 | | ○開放性 |

総合学科の構想 ②

総合学科を設置する意義

- 1 既存の学科の枠にとらわれず、思い切った教育課程の弾力化を容易にする。
- 2 推薦入学をはじめとする多様な選抜方法の工夫や多様な教科・科目の自由な選択を通して、能力・適正等の多面的な角度から評価が行われることにより、偏差値を尺度とする高等学校間の序列意識を打破する契機となる。
- 3 様々な分野の基礎・基本を学習するのに適切な科目が多数開設されるため、地域の人々の要望を踏まえつつ生涯学習機関としての役割を果たす。



総合学科の役割

偏差値による序列の打破

思い切った教育課程の弾力化

地域の人々の生涯学習機関

総合学科の構想 ③

総合学科高校とは

普通科、専門学科の学びを「系列」として設定
多くの選択科目の中から自分で科目選択ができる



主体性を重視した学び
地域と連携したキャリア教育

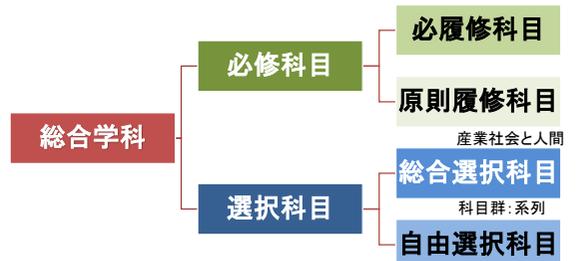
総合学科の教育の特色

- (1) 将来の職業選択を視野に入れた自己の進路への自覚を深めさせる学習を重視。
自己の在り方生き方をより深く考えていく積極的な契機。
- (2) 生徒の個性を生かした主体的な学習を通して、学ぶことの楽しさや成就感を体験させる学習を可能にする。
教育課程の編成、幅広く選択科目を開設し、生徒の主体的な選択や実践的・体験的な学習を重視し、多様な能力・適正等に対応した柔軟な教育を行うことを可能にする。

総合学科の学びの仕組み①

◆他学科との比較(何れの学科でも「必修科目」を履修)

- 普通科・・・国語、数学などの各教科に共通する科目を中心に学ぶ学科
- 専門学科・・・農業、工業、商業などの専門科目を中心に学ぶ学科
- 総合学科・・・共通科目と専門科目の中から、自分で科目を選択して学ぶ学科



国語、数学などの普通教科・科目中心

普通科

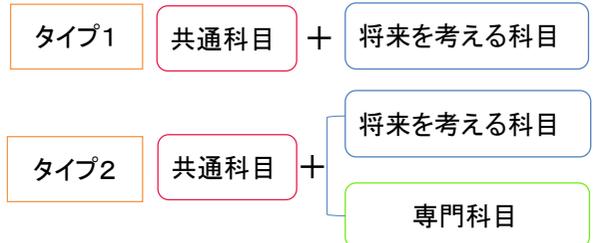
- 画一性
- 硬直性
- 閉鎖性
- 個性尊重
- 柔軟性
- 開放性

農業、商業などに関する専門教科・科目中心

専門学科

幅広い選択科目の中から自分で選択
総合学科

◆科目選択のタイプ



総合学科の学びの仕組み②

表 時間割の例(1週間に30単位(30時間)の授業を想定)

単位	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
1年次	国語			地歴		公民		数学				理科			体育		保健	芸術		英語			情報		産業社会と人間	L	H	R		
2年次	地歴	家庭		体育		保健	総合※	普通科目と専門科目の中から 各自の進路希望・興味関心に合わせて 20単位(20時間分)の授業を選択																			L	H	R	
3年次	体育	学探究			総合※	22単位(22時間分)の授業を選択																			L	H	R			

- 総合学科高校では、1年次に「産業社会と人間」を学習
- 「産業社会と人間」では、自己の生き方や、将来の夢や希望について考える
- 2、3年次は各自の進路希望や興味関心に応じて自分の時間割で学ぶ
- 「総合的な探究の時間」は、自らのキャリアを構想する時間として活用

単位制

総合学科の系列

■系列とは

「第四次報告」において「体系性や専門性等において相互に関連する **普通科目及び専門科目を科目群(総合選択科目群)としてまとめて開設**する」とある

「系列」 生徒が科目選択を行う際の履修上の指針
(あくまでも生徒が行う選択は「科目」)

▶課題

- 既存の教科や専門学科の名称等に依拠した形態が多い
→既存の学科やコース等との差異が見えにくい
- 専門学科との比較で考えれば、高度な専門性や系統性に関して劣っているのが実際
→「食べやすいが力がかからない“おかゆ学科”」
- 現代的な視点による教科を超えた系列を設け、従来の専門学科にはない専門教育を施すことを可能にする実践を始めた学校もある。
- 総合学科において系列の役割は大きく、さらに学校の特色を生かした「学校設定科目」の開設は、他の学科とは異なる総合学科の特色となる。

「改めて確認したい、総合学科高校の使命」 青木猛正(立教大学特任准教授)
月刊高校教育 2019.12月号 特集 専門高校・総合学科高校の展望

「産業社会と人間」の意義

- 「産業社会と人間」の展開は、各学校の取り組みにかかっていることが否めない。
- 生徒は「産業社会と人間」によって、自分自身を見つめ、社会に関心を持ち、その結果職業への意識が高まっていることは事実。
- 「産業社会と人間」の充実は、今後においても重要であることに変わりはない。
- 各学校の特色を生かしながら、科目本来の意義を高めてほしい。
- 同時に、生徒の意識の変容等の事後調査を実施し、しっかりとした評価を行うことも重要である。

「改めて確認したい、総合学科高校の使命」 青木猛正(立教大学特任准教授)
月刊高校教育 2019.12月号 特集 専門高校・総合学科高校の展望

科目「産業社会と人間」

目的
本節の目的は、大規模な、大規模な高校の統合後であり、幅広い学力層（新卒者から旧卒者まで）の生徒を育て入れることである。これにより、従来の職業教育を行うだけでは、卒業後に社会で活躍する人材を育成することが難しく、卒業後の教育環境の整備などにより、卒業後の職業教育の重要性も高まり、卒業後の職業教育への関心も高まっている。従来の職業教育の目的は、卒業後の職業教育の目的に近づけることである。

内容
幅広い学力層の生徒を受け入れ、それぞれの学力やコンプレックスに応じて様々な職業に関する知識を身につけ、生徒それぞれが職業生活に必要な能力を身につける。また、卒業後の職業教育の重要性も高まり、卒業後の職業教育への関心も高まっている。従来の職業教育の目的は、卒業後の職業教育の目的に近づけることである。

評価
1. 自身の職業・関心および職業選択の理由を述べ、その職業・関心領域の重要性を説明する。
2. 自身の職業・関心領域の重要性を説明し、卒業後の職業教育の重要性も高まり、卒業後の職業教育への関心も高まっている。従来の職業教育の目的は、卒業後の職業教育の目的に近づけることである。

No.	単元	単元名	単元目標	単元内容	評価
1	ガイダンス	学習内容の概観について概観	1. 自身の職業・関心について考え、その理由を説明する。	ガイダンス	ガイダンス
2	自己理解	自己理解の重要性を知る	1. 自己理解の重要性を知る。	自己理解	自己理解
3	自己理解	自己理解の重要性を知る	1. 自己理解の重要性を知る。	自己理解	自己理解
4	自己理解	自己理解の重要性を知る	1. 自己理解の重要性を知る。	自己理解	自己理解
5	自己理解	自己理解の重要性を知る	1. 自己理解の重要性を知る。	自己理解	自己理解
6	自己理解	自己理解の重要性を知る	1. 自己理解の重要性を知る。	自己理解	自己理解
7	自己理解	自己理解の重要性を知る	1. 自己理解の重要性を知る。	自己理解	自己理解
8	自己理解	自己理解の重要性を知る	1. 自己理解の重要性を知る。	自己理解	自己理解
9	自己理解	自己理解の重要性を知る	1. 自己理解の重要性を知る。	自己理解	自己理解
10	自己理解	自己理解の重要性を知る	1. 自己理解の重要性を知る。	自己理解	自己理解
11	自己理解	自己理解の重要性を知る	1. 自己理解の重要性を知る。	自己理解	自己理解
12	自己理解	自己理解の重要性を知る	1. 自己理解の重要性を知る。	自己理解	自己理解
13	自己理解	自己理解の重要性を知る	1. 自己理解の重要性を知る。	自己理解	自己理解
14	自己理解	自己理解の重要性を知る	1. 自己理解の重要性を知る。	自己理解	自己理解
15	自己理解	自己理解の重要性を知る	1. 自己理解の重要性を知る。	自己理解	自己理解
16	自己理解	自己理解の重要性を知る	1. 自己理解の重要性を知る。	自己理解	自己理解
17	自己理解	自己理解の重要性を知る	1. 自己理解の重要性を知る。	自己理解	自己理解
18	自己理解	自己理解の重要性を知る	1. 自己理解の重要性を知る。	自己理解	自己理解
19	自己理解	自己理解の重要性を知る	1. 自己理解の重要性を知る。	自己理解	自己理解
20	自己理解	自己理解の重要性を知る	1. 自己理解の重要性を知る。	自己理解	自己理解
21	自己理解	自己理解の重要性を知る	1. 自己理解の重要性を知る。	自己理解	自己理解
22	自己理解	自己理解の重要性を知る	1. 自己理解の重要性を知る。	自己理解	自己理解
23	自己理解	自己理解の重要性を知る	1. 自己理解の重要性を知る。	自己理解	自己理解
24	自己理解	自己理解の重要性を知る	1. 自己理解の重要性を知る。	自己理解	自己理解
25	自己理解	自己理解の重要性を知る	1. 自己理解の重要性を知る。	自己理解	自己理解
26	自己理解	自己理解の重要性を知る	1. 自己理解の重要性を知る。	自己理解	自己理解
27	自己理解	自己理解の重要性を知る	1. 自己理解の重要性を知る。	自己理解	自己理解
28	自己理解	自己理解の重要性を知る	1. 自己理解の重要性を知る。	自己理解	自己理解
29	自己理解	自己理解の重要性を知る	1. 自己理解の重要性を知る。	自己理解	自己理解
30	自己理解	自己理解の重要性を知る	1. 自己理解の重要性を知る。	自己理解	自己理解
31	自己理解	自己理解の重要性を知る	1. 自己理解の重要性を知る。	自己理解	自己理解
32	自己理解	自己理解の重要性を知る	1. 自己理解の重要性を知る。	自己理解	自己理解
33	自己理解	自己理解の重要性を知る	1. 自己理解の重要性を知る。	自己理解	自己理解
34	自己理解	自己理解の重要性を知る	1. 自己理解の重要性を知る。	自己理解	自己理解
35	自己理解	自己理解の重要性を知る	1. 自己理解の重要性を知る。	自己理解	自己理解

総合学科のキャリア教育

■キャリア教育の定義

一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育

(注) 中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」(平成23年<2011年>1月)

■将来への準備教育

- ① 将来の生き方を考え、自分ごとにする ▶ 「ワークキャリア」から「ライフキャリア」へ
- ② 社会に漕ぎ出していくための力を獲得する ▶ 「個人軸」に「社会軸」を加える
▶ 価値観・人生観、進路への見通し、基礎的・汎用的能力、専門性(自分の強み)

■キャリアアンカー(自分の根っこ)

- ・個人の職業生活の錨のようなもの。
- ・キャリアアンカーを見つけておけば、職業の選択肢が大きく広がる。
- ・たとえ転職していくつもの仕事に就くにしても、共通して持てる価値観のようなもの。

「キャリア教育は、どこでアクティブラーニングと出会うか? —これまでの点検から、新たな創造へ—」
児美川孝一郎 (法政大学キャリアデザイン学部教授)

研修会の内容

総合学科の概要

1 総合学科の説明

2 全国の総合学科について

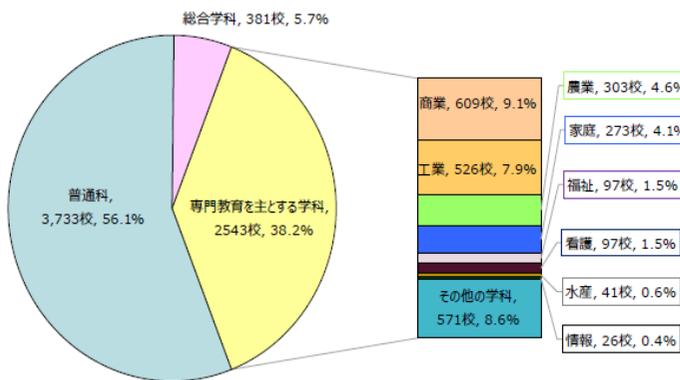
3 第1期長野県高等学校再編計画 まとめと課題の整理

4 総合学科の現状と成果・課題

5 質疑

総合学科の現状

高等学校の学校数（学科別）【令和2年度】



※全日制・定時制課程を置く学校数の計。
 ※一つの学校が2つ以上の学科を持つ場合は、それぞれの学科について、重複して計上。
 ※「その他」の学科は、専門教育を主とする学科のうち農業、家庭、福祉、看護、水産、情報に関する学科以外の学科（理数、体育、音楽、美術、外国語、国際関係など）の合計。

（出典）文部科学省「学校基本調査」

高等学校の生徒数（学科別）【推移】



※全日制・定時制課程の生徒数の割合。
 ※総合学科は平成6年度より制度化。

（出典）文部科学省「学校基本調査」

【出典】高等学校教育の現状について

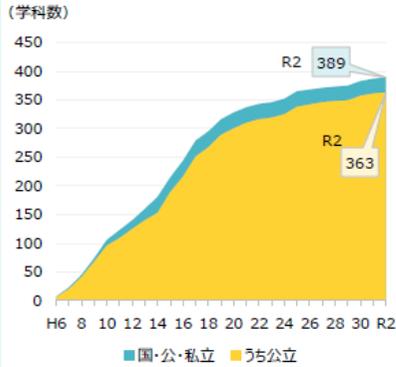
令和3年3月
 文部科学省 初等中等教育局 参事官(高等学校担当)付

総合学科数の推移

総合学科・単位制高等学校 [推移]

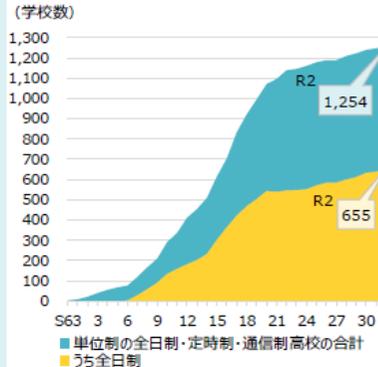
総合学科の教

普通教育及び専門教育を選択履修を旨として総合的に施す学科として平成6年度から導入



単位制高等学校の教

学年による教育課程の区分を設けない学科として導入 (昭和63年度から定時制・通信制で導入。平成5年度から全日制に拡大。)

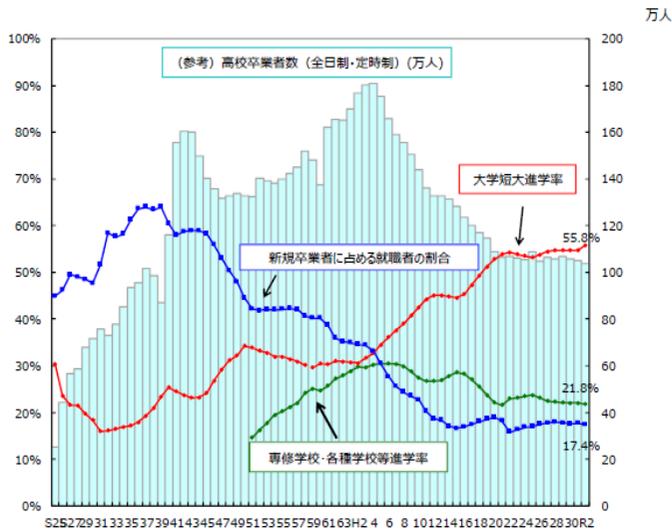


【出典】高等学校教育の現状について
令和3年3月 文部科学省 初等中等教育局 参事官(高等学校担当)付

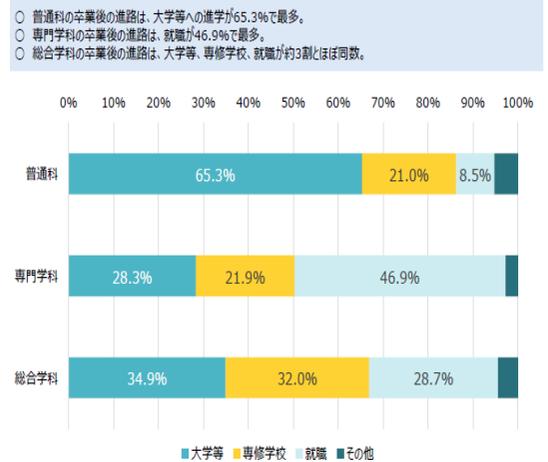
(出典) 文部科学省「学校基本調査」

総合学科の進路状況

高校生の卒業後の進路状況 [推移]



高校生の卒業後の進路状況 (学科別) [令和2年度]



(出典) 文部科学省「学校基本調査」

※「大学短大進学率」は、昭和58年度以前は通信制への進学を除いており、厳密には59年度以降と連続しない。

(出典) 文部科学省「学校基本調査」

【出典】高等学校教育の現状について
令和3年3月 文部科学省 初等中等教育局 参事官(高等学校担当)付

総合学科の系列、特色について ①

全国の総合学科高校

○令和2年5月、全国の総合学科高校数、単独学科学校数279校、総合学科設置校381校、生徒168,191人。(比率全体の5.5%)

○全国の総合学科卒業生の進路 <令和2年度学校基本調査>
大学・短大等進学約34.9% 専修学校等進学約32% 就職約28.7%

○特徴ある取組み

都道府県名	学校名	設置年度	課程	総合選択科目群	学校の特色
青森県	青森中央高校	H15	全	文科学系	総合的な学習の時間「あすなろ学」地域と行政と連携のもと高校生の視点から
				自然科学系	社会へ向けて奉仕・提言するような活動や情報発信
				健康福祉系	健康福祉系列、介護福祉士の国家試験取得を目的とし、一期生合格率100%
				リビングデザイン系	大学進学希望者、弘前大学に訪問。大学の授業を聴講(文・教・理・農・医)
				生活科学系	興味ある分野の教授と対談
				情報ビジネス系	「産社」上級学校訪問・企業訪問・卒業生講話・職業人講話などキャリア教育を推進。
文化観光系	高大連携で「起業」を行う				

総合学科の系列、特色について ②

特徴ある取組み

都道府県名	学校名	設置年度	課程	総合選択科目群	学校の特色
宮城県	迫桜高校	H13	全	人文国際系	総合選択制とガイダンスの充実
				自然科学系	学力保障の取組み(週末課題、土曜課外、7校時授業)
				福祉教養系	開かれた学校づくり(学校だよりを地域全戸回覧、HP、校舎・図書館・食堂等施設の一般開放、一般向け講座、中学生向け公開講座)
				情報科学系	集団生活の中での自己実現(入学時のMAP・みやぎアドベンチャープログラム)
				エンジニアリング系	宮城県独自の教育方法)
栃木県	足利南高校	H12	全	異文化コミュニケーション系	開放講座として、演劇・フランス語・スペイン語・中国語
				生活デザイン	地域の伝統文化や産業の理解を深めることを目的に、ニットデザイン、
				情報メディア系	染色デザインを開設
				自然科学系	
				芸術・スポーツ系	

総合学科の系列、特色について ③

特徴ある取組み

都道府県名	学校名	設置年度	課程	総合選択科目群	学校の特色
北海道	石狩翔陽高校	H13	全	略	高大連携「福祉概論」藤女子大学、「社会福祉制度」北星学園大学から講師を招き、連携授業
新潟県	村上桜ヶ丘高校	H13	全		特色ある系列 森林環境系列・地域学系列 地域に根差した学校設定科目（村上・岩船の自然・産業）
石川県	七尾東雲高校	H16	全		学校設定科目「ボランティア」 生徒の興味関心に応じた「菓子づくり」「パンとケーキの科学」「ハイパー情報Ⅰ・Ⅱ」
滋賀県	甲南高校	H19	全		同一敷地内に高等養護学校を併設し、相互交流を図っている
京都府	南丹高校	H16	全		特色ある科目「平和学」「ライフスポーツ」障がい者・福祉問題学習「ふれあいタイム」
兵庫県	武庫荘総合高校	H15	全		民間人活用講座やカレッジウィーク（大学生生活の体験学習）実施 ニュージーランドでホームステイ
鳥取県	米子高校	H10	全		韓国の高校との交流（2年生全員）
熊本県	翔陽高校	H8	全		学校設定科目「グリーンデザイン」全員履修 生活環境として緑の必要性を認識。環境汚染と地球環境問題等の学習を行っている
横浜市	市立みなと総合高校	H14	全		国際理解教育 バンクーバ・オーストラリア・中国・台湾の高校と幅広く交流 校内にバディ登録制度

研修会の内容

総合学科の概要

1 総合学科の説明

2 全国の総合学科について

3 第1期長野県高等学校再編計画 まとめと課題の整理

4 総合学科の現状と成果・課題

5 質疑

本県の総合学科設置状況

表 長野県の総合学科設置状況

学校名	塩尻志学館	中野立志館	丸子修学館	蘇南	佐久平総合技術 ^{注1}	長野市立長野 ^{注2}
募集定員	200	200	240	80	80	160
設置系列 (学習分野)	人文社会 自然科学 国際文化 芸術スポーツ 環境科学 食品科学 情報ビジネス 生活福祉	人文科学 自然科学 生産技術 商業実践 生活科学	文化アカデミー サイエンスアカデミー バイオ・環境テクノ 情報ビジネス スポーツ健康 芸術デザイン	文理 経営ビジネス ものづくり	生物環境 デザイン 文理医療	人文 外国語 理数 社会学 芸術 スポーツ 生活 情報ビジネス
募集開始年度	2000(H12)	2007(H19)	2007(H19)	2009(H21)	2013(H25)	2008(H20)

※ 学科及び募集定員は、各校の学校要覧（2020年<令和2年>5月1日現在）による。

注1 2013年度に臼田高校へ創造実践科を設置。2015年度より佐久平総合技術高校の臼田キャンパス。

注2 2017年度に長野市立長野中学校を併設（学級募集）

第1期長野県高等学校再編計画まとめと課題の整理
(中高一貫校・総合技術高校 増補版)
令和3年(2021年)3月 長野県教育委員会

本県の総合学科の進路状況

表 進路状況のまとめ

(人)

学校名		大学	短大	専門 学校等	就職	就職者内訳		その他 注1	計
						県内	県外		
中野立志館		20	11	78	92	90	2	9	210
丸子修学館		27	21	90	88	84	4	8	234
佐久平総合技術 (臼田キャンパス)		9	6	32	20	18	2	3	70
蘇南		12	7	23	23	9	14		65
塩尻志学館		59	44	72	36	34	2	13	224
市立長野		85	13	47	3	3		13	161
合計	計	212	102	342	262	238	24	46	964
	比率	22.0%	10.6%	35.5%	27.2%	24.7%	2.5	4.8%	100.0%

※ 各校への聞き取り調査及び各校の「学校要覧」（2020年<令和2年>5月1日現在）による。

注1 「その他」の内訳は、進学準備・浪人、自営、家居等

第1期長野県高等学校再編計画まとめと課題の整理
(中高一貫校・総合技術高校 増補版)
令和3年(2021年)3月 長野県教育委員会

総合学科 卒業生の進路

進路状況(令和2年度卒業生)

	大学	短大	専門学校等	就職	就職者内訳		その他	計
					県内	県外		
卒業生数(人)	212	101	348	251	225	26	34	946
割合(%)	22.4	10.7	45.0	26.5	89.6	10.3	3.6	

業種	業種別内訳	
	内訳(人)	割合(%)
農業・林業	7	2.8
建設業	29	11.6
製造業	113	45.0
情報通信業	1	0.4
運輸・郵便業	5	2.0
卸売・小売業	20	8.0
金融・保険業	1	0.4
宿泊・飲食業サービス	13	5.2
生活関連サービス、娯楽業	5	2.0
医療・福祉	10	4.0
複合サービス業	29	11.6
サービス業	4	1.6
公務	14	5.6
合計	251	

(注) 学校への聞き取り調査及び「学校要覧」(2021年<令和3年>5月1日現在)による。

総合学科で学んだ生徒の意識

表 総合学科高校で学んだ生徒の意識について

(%)

質問事項	中野 立志館	丸子 修学館	佐久平 総合技術 (白田キャンパス)	蘇南	塩尻 志学館	長野市 立長野
・キャリア教育が有意義であった	76	82	---	87	81	72
・将来や進路についての考えが深まった	88	85	---	93	---	89
・自分の時間割に満足している (「充実していた」「面白かった」「進路にとって有益」など)	78	85	---	89	89	83
・コミュニケーション能力を伸ばすことができた	91	88	---	---	---	---
・確かな学力を身に付けることができた	---	---	---	---	92	---
・「課題研究」や探究活動が有意義であった	79	84	---	---	85	87
・卒業後の進路に満足している	92	93	---	---	78	89
・進路指導に満足している	86	79	91	---	---	86
・3年間の高校生活に満足している	87	88	95	---	94	---
・総合学科で高校生活を送って満足している	---	---	---	98	---	94

※ 各校への聞き取り調査、2017年度<平成29年度>卒業時質問紙調査結果による。
※ 表中の数値は「当てはまる」及び「だいたい当てはまる」と回答した生徒の割合を示す。

第1期長野県高等学校再編計画まとめと課題の整理
(中高一貫校・総合技術高校 増補版)
令和9年(2024年)3月 長野県教育委員会

総合学科のキャリア教育の取組と生徒支援体制

(1) キャリア教育の取組

表 科目「産業社会と人間」(1年次)及び「総合的な探究の時間」(2・3年次)の取組例

学習内容	学習活動
<ul style="list-style-type: none"> ・自己理解・職業理解・上級学校理解 ・社会認識・他者理解・履修計画 ・自己のあり方・生き方・進路選択 ・他者とのコミュニケーション ・信州学(地域理解等) ・シオジリ学(地域理解等) ・課題研究 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク・講演会、講義、模擬授業 ・就業体験・インターンシップ・発表会 ・企業、上級学校訪問・科目選択 ・コミュニケーションキャンプ・読書レポート ・自分史作成・ライフプラン作成 ・ソーシャルスキルトレーニング ・同世代や異世代とのコミュニケーション ・探究活動・フィールドワーク(聞き取り等)

(2) 履修計画(科目選択)の支援体制

- 手引書の利用 ○サポーター(担任以外の教員)による個別指導 ○授業見学 ○模擬授業
○科目選択交流会(上級生が下級生に助言) ○三者面談 ○科目選択検討会議

(注)「総合学科アンケート調査」まとめ 高校改革推進係(平成31年)

総合学科の学習指導の取組

(3) 学習指導の取組

表 学習指導の取組例

取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ○単位制及び2学期制 ○1・2・3年次の国語・数学・英語は「基礎」、「標準」、「発展」の3つの講座に分けて授業 ○教科間の相互に関連する単元や教材では、関連する講座の合同授業を実施。例えば、生涯スポーツ(車椅子バスケットボール)の学習では、体育講座と福祉講座を履修する生徒が合同で学ぶ等 ○生徒が知識を相互に関連付けてより深く理解するために、教科の枠を越えたチームティーチングによる授業を実施。例えば、体育のトラックづくりの授業で数学の教員が指導したり、数学の三角関数の授業で工業の教員がオシロスコープを使って指導する等 ○朝のショートスタディ(10~30分間)や朝読書を実施 ○放課後の勉強クラブの実施 ○休日の学習塾を開設 ○学校外における学修等の単位認定を実施(技能審査の成果の単位認定)
------	--

(注)「総合学科アンケート調査」まとめ 高校改革推進係(平成31年)

総合学科の地域と連携した取組

(4) 地域と連携した取組

学校名	連携した学びの内容
塩尻志学館	<ul style="list-style-type: none"> ・ワイン醸造企業、塩尻市との産学官連携協定(ブドウ栽培、ワイン醸造) ・塩尻市との連携(カリフォルニアワイン研修、成果報告会) ・塩尻市産業振興事業部農政課との連携(桔梗ヶ原「農」学校:地域住民と生徒と一緒に授業を受ける公開授業) ・塩尻市産業振興部産業政策課との連携(高校生起業家育成プログラム) ・塩尻商工会議所との連携(出張シリゼミ) ・小学校との連携(3年生との農業学習) 等
丸子修学館	<ul style="list-style-type: none"> ・東京農業大学国際食料情報学部との連携協定(長和町山村再生プロジェクト) ・上田市及び上田商工会とのパートナーシップ協定(福祉施設、依田川リバーフロント市民協働事業、農産物直売加工センター連携事業等) ・松本大学との連携協定(商業・福祉教育等に関する連携) ・上田女子短期大学との連携協定(幼児教育等に関する連携) ・長野大学との連携協定(地域活性化に貢献する人材育成) ・佐久大学信州短期大学部との連携協定(福祉教育等に関する連携) ・小学校との連携(6年生との農業学習) 等
長野市立長野	<ul style="list-style-type: none"> ・信州大学工学部との連携協定(キャリア教育・探究活動に関する連携) ・長野県立大学との連携協定(キャリア教育に関する連携) ・清泉女学院大学・短期大学との連携協定(キャリア教育・芸術分野教育に関する連携) ・長野市立阜月かがやきこども園との連携(芸術分野) ・住民参加型授業(年間通して市民と生徒がともに学ぶ公開授業) ・長野市ボランティアセンターとの連携 ・ACパルセイロとの連携 等

(注)「総合学科アンケート調査」まとめ 高校改革推進係(平成31年)

総合学科に対する主な感想

主な感想

- ・自分自身を見つめ自分の人生について真剣に向き合うようになった。
- ・やりたいことが明確になれば、どんなに大変で難しいことでも、できると感じられたのは、総合学科のおかげだと思う。
- ・自分の未来や可能性を無限に広げられる学科であると思った。
- ・自分のやりたいことが明確になり、それを伸ばすことができた。
- ・自分に自信を持つことができたり、学ぶことの楽しさを体験できた。
- ・先のことを考えて行動すること、目標に向かって自ら行動する力を身に付けることができた。
- ・進路実現について進学・就職の両面で充実していると思った。
- ・キャリア教育、科目選択、探究活動を通して、自立する力や自分で考えて行動する力が身に付いた。
- ・考えること、選択することが多いので、ネガティブな姿勢ではつらいと思う。
- ・選択できる自由と同時に責任が求められると思う。
- ・主体性が求められる学科である。
- ・必ずしも思い通りの科目選択ができなかった。
- ・自分が何になりたいのかわからないときがあった。

(注)「総合学科アンケート調査」まとめ 高校改革推進係(平成31年)

総合学科 生徒の満足度・意識

表 総合学科高校で学んだことに対する満足度（「満足」・「ほぼ満足」と回答した割合）

中野立志館	丸子修学館	蘇南	塩尻志学館
87%	88%	96%	94%

注) 2017年度（H29）各校の卒業時意識調査より（但し、蘇南は2016年度調査）

表 総合学科高校で学んだ卒業生の意識（卒業時意識調査より抜粋）

卒業生の意識	<ul style="list-style-type: none"> ・「しなければならない」、「これしかない」と与えられる授業を受けるより、科目選択の中で「今一番自分がしなければならないこと」、「したいこと」を考えて授業を受けると3年間充実できると思う。実際とても授業が楽しかった。 ・自分の進路や進みたい分野をより深く見つめることができたと思う。新しくやりたいことを見つけた友達もいた。 ・科目選択は、進路を考える中でいろいろな分野を知ることができ、新しい出会いがあるところが良いと思う。 ・考えたり選択したりすることが多く、主体性を求められる学科。選択できる自由と同時に責任が求められる。
--------	---

（注）「総合学科アンケート調査」まとめ 高校改革推進係(平成31年)

研修会の内容

総合学科の概要

1 総合学科の説明

2 全国の総合学科について

3 第1期長野県高等学校再編計画 まとめと課題の整理

4 総合学科の現状と成果・課題

5 質疑

総合学科のアンケート結果からの考察 ①

総合学科生徒の実態把握・生徒の意識調査

3年生対象、32校より集計(1校につき3学級)

アンケート結果からの考察

1 高校を選択する際の意識

- ① 総合学科を**強く希望して入学してくる生徒は半数に満たない**。(45.8%)
- ② 総合学科を意識したり、総合学科を**理解して入学している生徒は6割～7割程度**
- ③ 高校選択時の**総合学科のイメージは「多くの選択科目がある」**



卒業時、総合学科を選択したことに対する満足度調査、8割が肯定的
入学時に総合学科を理解して入学した生徒は、総合学科の学びに対する満足度が高い。



中学校や中学生に対して、総合学科に対する理解度を高めることが総合学科の発展のうえで非常に重要

総合学科のアンケート結果からの考察 ②

2 「産業社会と人間」における学びについて

- 質問内容
- ①入学時よりも自分自身を見直すことができた
 - ②入学時よりも、これからの生き方を考えることができた
 - ③入学時よりも、社会や現実や現状を新たに知ることができた
 - ④入学時よりも、働くことに対して意欲がわいた
 - ⑤入学時よりも、社会の出来事に対して問題意識をもつようになった

- 結果 **「ややそう思う」「とてもそう思う」あわせて各項目とも8割程度**に達している。
 ・授業に概ね前向きに取り組んでおり、学校側の意図も生徒に伝わっていると考えられる。



総合学科での満足度や充足度の高さは「産業社会と人間」の満足度や充足度の高さと正の相関関係がある。

なぜ「産業社会と人間」を学ぶのか、学習目的を明確にする必要がある。

総合学科のアンケート結果からの考察 ③

3 科目選択について

科目選択は、総合学科における最も大切な活動のひとつ。

- ・科目選択の仕方がわかりにくい ・科目選択が急すぎる
- ・取りたい科目が思ったより取れない
- ・将来の夢が変わったら、時間割変更をすんなりできるようにしてほしい
- ・先生が理解していない。もっと担当の先生に聞きに行ったりしたほうがいい

よりよい科目選択ができる工夫は常に議論し、実施が必要。

科目選択の際に、生徒が最も参考になっているもの

- ・担任話 ・ガイドブック ・友人の話 ・先輩の話
- 2.3年生に科目選択に関して質問できる機会を設ける工夫も。

科目選択の成否は、生徒の3年間の学びの満足度に直結する。

総合学科のアンケート結果からの考察 ④

4 総合学科の改善点に対する意識 (生徒の自由記述より)

「授業内容に関すること(45.3%)」「科目選択に関すること(36.2%)」



- | | |
|--------------|--|
| 「授業内容に関すること」 | → 学習方法・個性尊重に向けた授業・基礎学力向上・カリキュラムに関する記述 |
| 「科目選択に関すること」 | → 科目選択のガイダンスのあり方・科目選択の充実や選択を希望する科目を受講できるシステム・教員の指導 |
| 「系列にかんすること」 | → 選択の幅・系列の特色を強調・進路選択や個に応じた教育に対する対応策 |
| 「産業社会と人間の授業」 | → 授業の目的を理解している生徒は有意義・理解していない生徒は無意味 |
| 「進路に関すること」 | → 進路変更への対応・進路指導の充実 |



普通科にない総合学科ならではの教育を、生徒たちが求めている。

総合学科のアンケート結果からの考察 ⑤

5 塩尻志学館の取組み (満足度の高い学校への訪問調査より)

- 歴史 1911年 郡立乙種農学校として設立 2000年 長野県 最初の総合学科として開設
2011年 創立100周年 3年6学級、1.2年5学級 全校生徒 615名
- 系列 人文社会・自然科学・国際文化・芸術スポーツ・環境科学・食品科学・生活福祉・情報ビジネス 8系列
- 特徴 入学前から総合学科に興味・関心・理解のある生徒が多い
- 取組 ・中学校訪問 開設当初から継続して進められている
 - ・Webサイトを活用した広報活動 **学校の活動を外部に発信、教育活動の見える化**
 - ・保護者・生徒向け総合学科通信「CAREER」を**毎月1回**発行
- カリキュラム 必修科目及び原則履修科目以外は全て選択科目 選択科目は原則、年次の区別なし
系列、科目群による縛りもないオープンな科目選択が可能
科目選択交流会 上級生から経験を直接聞いて自分の科目選択の参考にする
4回の科目調査と2回の保護者懇談
生徒一人一人の科目選択の情報は教員間で共有
教科担当者などからコメントが付けられた個人票の配布
「サポーターズシステム」生徒の学びや科目選択、進路相談の支援
2年次「キャリアプランニング」3年次「総合研究」
- 感想 教職員が、総合学科を理解し楽しんでいる。教職員が一丸となってどうやったら総合学科の理念を実現できるか、常に前を向いて前進する姿勢を持っている。「生徒も教員も学校にプライドを持っている。

総合学科の成果

- 1 **第3の学科として中学生の重要な進路の選択肢となっている。**
 - ・志願倍率の過去5年間の平均値(前期選抜1.27倍、後期選抜0.94倍)
 - ・「多様な学習分野が魅力である」「選択科目が豊富である」「時間割を自分で作ることができる」等の志望動機。
- 2 **キャリア教育により自己の進路への自覚を深める学習活動が推進されている。**
 - ・生徒アンケート調査によると、「キャリア教育が有意義であった」と認識している生徒が7～8割、「将来や進路についての考えが深まった」と認識している生徒が8～9割を占めている
 - ・「産業社会と人間」を起点とする3年間のキャリア教育により、自己のあり方・生き方を見つめる中で、自己の進路への自覚を深める学習が推進されている。
- 3 **学ぶことの楽しさや成就感を持てる学習活動が推進されている。**
 - ・自分の時間割について、「授業が充実していた」、「面白かった」、「進路実現にとって有益であった」と認識している生徒が各校で7～8割を占める。
 - ・生徒が主体的・意欲的に学び、授業に対する充実感等が高まっている。
- 4 **コミュニケーション能力や思考力・判断力・表現力等を育成する学習活動が推進されている。**
 - ・生徒アンケート調査によると、「コミュニケーション能力を伸ばすことができた」、「確かな学力を身に付けることができた」と認識している生徒が各校で8～9割。
 - ・課題研究や探究活動が有意義であった」と認識している生徒が各校で7～8割。
- 5 **一人ひとりの進路希望を支援する教育活動が推進されている。**
 - ・生徒アンケート調査によると、「進路指導に満足している」、「卒業後の進路に満足している」と認識している生徒が各校で高い割合。

(注)「総合学科アンケート調査」まとめ 高校改革推進係(平成31年)

総合学科の課題

- 1 **キャリア教育の更なる工夫と充実を図っていく必要がある。**
 - ・全国調査^{注1}によると、キャリア教育の充実が総合学科の満足度を高めるという相関関係が明らかになっている。
- 2 総合学科に対する**中学生・保護者の理解や認知度**を更に高めていく必要がある。
 - ・全国調査では、総合学科を理解して入学した生徒は、満足度が極めて高い結果となっている。
 - ・「総合学科」という呼称について、教育内容をわかりやすく端的に示す名称への変更が必要か。
- 3 **教育課程の弾力化を進める必要がある。**
 - ・教育課程の弾力化（学校外における学修等の単位認定等）が十分に進んでいるとはいえない。
- 4 **総合学科ならではの学びを更に充実していく必要がある。**
 - ・自分の適性や能力を活かす専門分野を見つけ、その専門性を深め追究することができる総合学科ならではの学びのあり方を更に充実させていくことが必要である。

注1 文部科学省委託事業:「総合学科の在り方に関する調査研究」報告書(2012年)

(注)「総合学科アンケート調査」まとめ 高校改革推進係(平成31年)

研修会の内容

総合学科の概要

- 1 総合学科の説明
- 2 全国の総合学科について
- 3 第1期長野県高等学校再編計画 まとめと課題の整理
- 4 総合学科の成果と課題

「産業社会と人間」について

質疑 (全ての説明終了後)